

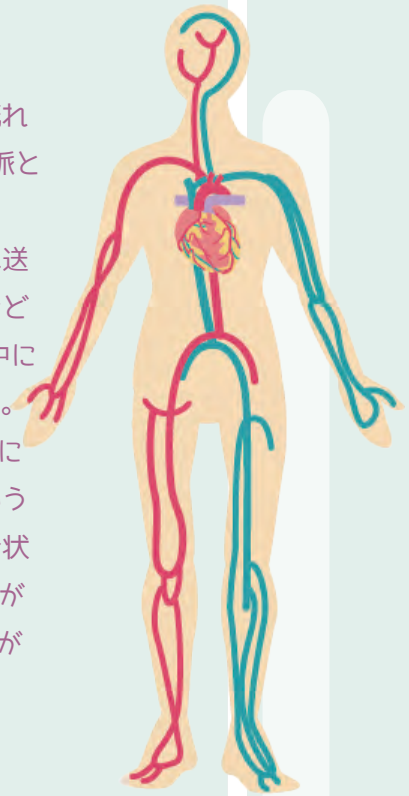
深部静脈血栓症

検査科 たより

1、深部静脈血栓症とは

体には、血液が心臓から手足へ向かって流れる動脈と手足から心臓へ向かって流れる静脈という血管があります。

心臓がポンプの役目をして、血液を動脈へ送りだしています。静脈にはポンプはありませんが、筋肉の収縮や呼吸、拍動などにより心臓へ血液を戻しています。深部静脈血栓症は、深部静脈という筋肉の中にある静脈に血の塊（血栓）ができ、血管を塞いでしまうことで起こる病気です。エコノミー症候群という名前でも知られていると思います。9割以上が脚の静脈内できます。血液が固まりやすい、血液の流れが悪い、血管が傷ついているという3つの状態が、静脈血栓を起こしやすくします。これらの状態は、さまざまな状況で日常的に起こりえます。深部静脈血栓症の殆どは血液の流れが悪くなることが原因で起こります。これに加えて、先天性の凝固因子異常、悪性疾患等の血液が固まりやすい状態が引き金となる場合が多いです。



| | |
|-----------|---|
| 血液の流れが悪い | 同じ姿勢のまま足を動かさない状態にいる。 ⇒手術後、長期臥床、飛行機・バス・新幹線などの移動、災害時 |
| 血液が固まりやすい | 先天性血栓性素因、悪性腫瘍、経口避妊薬、加齢 |
| 血管が傷ついている | 膠原病、炎症、高ホモシステイン血症、加齢 |

2、症状

患者の約半数は無症状です。血栓が肺へと移動し、肺塞栓症を併発することで異常を感じる場合があります。血栓の大きさによっても症状が変わってきますが、ある程度の大きさの血栓が肺動脈を塞いでしまうと呼吸困難から失神やショックを起こし、最悪の場合、命を落とす可能性もあります。

また、下肢の太い静脈の血管が血栓によって塞がれてしまうと、血液が流れにくくなり、血液がたまって下肢に張れや痛みが現れることがあります。この状態が長期間続くと皮膚に潰瘍ができることもあります。



3、診断と検査

殆どは超音波検査で診断が可能です。これに加え、肺塞栓症の合併を調べる目的で、血流シンチ、造影CTなどを行います。又、血液検査により凝固の原因となる血栓性素因の有無、血液凝固亢進の状態を確認する事も行われます。

ウラへ続きます！



4、治療

最大の目的は、致命的となりうる肺血栓塞栓症の予防、それに加えて、下肢の腫脹、疼痛などの自覚症状の軽減、後遺症の予防が目標となります。
主に薬物療法が行われ、外科的治療が行われる事はまれです。

薬物療法

| | |
|---------------|--|
| 抗凝固療法 | 血液をさらさらにする事で血栓の増大を防ぐ治療。 |
| 血栓溶解療法 | 急性肺血栓塞栓症の合併や血栓が大きく、できて1～2週間の急性期の血栓に適応。留置カテーテルによる血栓溶解療法も用いられる。出血が止まらなくなる副作用がある。 |

カテーテルを用いた血栓溶解療法や手術による血栓を除去する方法

その他

肺血栓塞栓症の発症などの重症化を防止するために、
下大静脈フィルターを留置し、下肢の血栓が肺静脈に流れるのを防ぐ。

5、予防

定期的に身体、主に脚を動かす

バスや飛行機での長時間の移動や、手術後の人などは長時間動かない状態が続くことが多いので、定期的に体を動かすなどして気を付ける事が大切です。

弾性ストッキングを使う

弾性ストッキングを履くことで、静脈が細くなり、血液が流れやすくなります。

水分補給

脱水になると血液粘度が上昇し、血栓の原因となります。水分をとることで血液がサラサラな状態が保たれ、血栓症の予防となります。

まとめ

深部静脈血栓症は飛行機だけでなく、長時間体を動かさない状況があれば日常生活でも起こり得る疾患です。特に長時間同じ姿勢でいることが多い方はこまめに水分補給し、定期的に足を動かすよう気を付けてください。血栓が肺に飛び肺塞栓症を併発すると命の危険を伴うこともあります。もし、急な足の腫れや変色、息苦しさ、胸の痛みを感じた場合、すぐに「循環器内科」などの専門外来を受診してください。